



～小・中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第14号

学びのコンパス

～学習に「困り」のある子どもへの支援～



事例38

梅津北小学校 の実践例から……

ICT機器などを活用した、「困り」のある子どもへの支援

梅津北小学校では、学習に「困り」のある児童の実態を全教職員で共通理解した上で、支援策を探るようにしています。まず通常の学級で全体指導の方法を工夫し、次にT T体制を作って個別支援を取り入れるとともに、通級指導教室による個別支援をしています。また、それぞれの児童への支援を検討する中で、ICT機器などを使った支援を行っています。

ICT機器を活用した取組から

■読むことに困りのある児童に …… ペンでタッチすると読める 音声付教科書

教科書やテストなど読むことに困りのある児童には、本人や保護者と相談した上で、音声付教科書を使っている。専用のペンで文章をなぞることにより、視覚的にとらえるだけでなく、聞き取ることで文章の内容を理解していける利点がある。

ペンでタッチすると読める
音声付教科書



■ひらがなの読みに困りのある児童に …… VOCA-PEN(ボカペン)

ひらがなの読みに困りのある児童には、絵本などに専用のシールを貼って、児童の音読をボカペンに録音している。児童にとって自分の声を聴く楽しみがあり、上手く読もうと繰り返し音読することで、自然とひらがなを読む練習になっている。



■テスト問題の読上げに …… VOCA-PEN(ボカペン)

テストで問題文の読上げが必要な児童には、教員が問題文をボカペンに録音し、児童がイヤホンで聞くことで、他の児童と同じ教室でテストを受けられるようにしている。なお、テスト問題を事前に録音することができない場合は、別室で教師が問題文を読み上げることもある。

VOCA-PEN(ボカペン)
専用シールを貼れば、どんな
文書も録音・読上げができる！



■視覚支援に …… タブレット

体育科の学習で、視覚支援としてタブレットを使用している。跳び箱や鉄棒など、自分の動きを見ることで理解が深まっている。また、サッカーなどの団体競技では自分たちの動きや技術を動画や静止画でとらえることで、作戦タイムも充実したものになる。

子どもの願いを大切に、子どもの強みを生かせるように。～多様な工夫を行っています～

『ポイントカード』

できることを「見える化」するために、児童のめあてを「ポイント」とするポイントカードを作成している。児童の達成感につながりやすく、毎日の状況を教員がこまめにほめることにより、自己肯定感を高める関わりが増える。

『板書交流会』

研究教科に限らず、年間3回の板書交流会をしている。様々な教科の板書を交流することで、児童にとって分かりやすい、思考の助けとなる板書を目指している。

『チケット制』

授業中にパニックになった場合に、クールダウンのための「チケット制」を設けている。チケットは1日2枚、「行先はきちんと伝えてから、10分か15分で戻る」という約束を守ることにしている。チケットがあることで教員が連携を取りやすいという利点もある。



取組を振り返って

- ・VOCA-PEN(ボカペン)の使用など個に応じた支援を行う際には、本人や保護者の了承とともに、学級全体での受け止めが必要不可欠であり、安定した学級経営に左右されるところが非常に大きい。
- ・「気にかかる児童」を「特別扱い」しているのではなく、自然と個々に必要な支援を受けられる、学級全体の雰囲気づくりを大事にしていく必要がある。

事例39

LD等通級指導教室での取組と、在籍学級との連携

松陽小学校では、LD等通級指導教室において、個々のニーズに応じた自立活動に取り組んでいます。その多くはそれぞれの児童が苦手としている活動内容のため、くじけずに意欲をもって継続できるための工夫をしています。また、LD等通級指導教室の取組と在籍学級との連携についても大切に取り組んでいます。

■級位・段位表

児童が自分の達成度を実感できるように、また、次の目標に向かって主体的に自立活動に取り組めるように、級位・段位を認定している。十級から始まり、級・段が上がっていくごとに内容が難しくなる。

児童の意欲を後押しできると共に、できたことを振り返ったり、今後の取組について見通しをもつことができる。



■ペアリング学習漢字カード

国語の漢字の読みと語彙習得のためのカード。語彙の習得により読む力を向上させ、文章を読んで理解できることを目標としている。

漢字カードの左上には、その漢字に関連したイラストを載せ、漢字の形・読み方(音声)・意味をペアにすることで習得しやすくしている。イラストは、教科書の内容に合うようにし、在籍学級の授業とリンクするよう工夫している。(写真は2年「ふきのとう」)



■筆算3択問題

手順が多い筆算に苦手意識がある場合に使う。3枚の「答えカード」の中に、正解を1枚、よくある間違いを2枚入れ、正解を選んだ場合は他の2枚がなぜ間違っているのか、間違いカードを選んだ場合は、なぜそのカードが正解だと思ったか、児童が説明するようにしている。このステップを経て、安心感をもって自力で臨むことができる。(写真は5年「小数÷小数」)



■学校のお悩み相談室（SSTの取組）

SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)を進める上では、児童が困っていることや苦手なことを指導者に話し、共有することが大切である。そこで、他の人の「お悩み相談おたより(匿名)」に対するアドバイスを考えながら、自分が困っていることを話せるようにしていく。マスコットキャラクターを設定して、取組に親しみをもてるようにしている。



名前は
ピカリン
です♪

■自分研究

人や集団に対する不安が大きい場合、日頃から児童の考え方のクセに働きかけ、変化のきっかけをつかめるように取り組んでいる。テーマごとにストーリー仕立てにし、不安に対する考え方を児童と一緒に見つけていく。「前向きな考え方」というストーリーでは、物事のよい面を見つける練習を続ける。他に「自分を運転する」「頭の中の振り分け機」など、個々の課題に応じて取り組んでいる。



ストーリー「前向きな考え方」

利き手が使いやすいのと同じで、前向きな考え方も毎日練習するとできやすくなる

児童にとって、大半の時間を過ごすのは在籍学級です。——在籍学級と通級指導教室の連携——

■通級指導教室担当は …… 授業観察や週予定をもとに、在籍学級での学習内容や人間関係を把握し、担任と一緒に児童の学力向上および生活の質の向上に向けた具体的な支援を考える。

■在籍学級の担任は …… 授業場面および生活場面で支援を行う。担任は本人と周囲の反応を見ながら、通級指導教室での本人の達成感と意欲を定期的にモニターしながら修正を加える。

取組を振り返って

- ・児童の実態は個々に違うので、在籍学級と通級指導教室が連携し、柔軟に対応する必要がある。
- ・目標とする行動に結びつくには時間が必要だが、その間も、意識づけのための声かけをしたり、児童が取組を継続できるような環境を作ることが大切である。

衣笠中学校では、学習に「困り」を抱えた生徒が学びやすくなるよう学習環境の整備を進め、授業を改善・工夫しています。そうした教育実践を積み重ね、「すべての生徒にとって学びやすく、過ごしやすい学校づくり」につながる「教育のユニバーサルデザイン化」を推進しています。

学習環境の整備を進め、授業を改善・工夫

生徒たちの
困り（例）

- 黒板まわりの掲示物が気になる。
- 授業中、何がどこまでできたらよいのかわからない。授業の見通しがもてない。
- 黒板のどこに必要な情報が書かれてあるのかわかりにくい。
- 言葉だけの説明では、内容をイメージすることが難しく、覚えようと思っても忘れてしまう。

取組内容

- 教室環境の整備(掲示物等)
- 「本時のめあて」と「本時の流れ」の明示
- 仕切り棒の活用による板書の構造化
- 板書とワークシートの一体化
- 視覚支援(実物・映像・画像・文字等)

すべての生徒にとって 学びやすく 過ごしやすい 学校づくり

授業や学習環境の工夫



左の写真では……

- ① 本時のめあてを明示
- ② 本時の流れを明示
- ③ 注視しやすくなる
仕切り棒・枠の活用
- ④ 黒板回りに掲示物なし
- ⑤ 板書語句は黄色、その他は白

この他にも……

- タイマーを活用し、グループ活動に見通しを持たせる
- プロジェクターと板書を併用する
- 生徒同士の対話を授業展開に組み込む、仲間と意見を共有する、など

視覚支援のため、
イオン分子のモデルを
図案化。



全教職員での取組

■生徒個人票の作成

焦点化生徒への手立てを共有するために、担任、教科担任だけでなく、その生徒に関わる教職員全員が入力・閲覧できる生徒個人票ファイルを作成し、共有。生徒の見立てや支援の手立てを更新している。

■授業の動画記録と分析

授業をタブレットで定点撮影し、教科会でユニバーサルデザイン化の視点をもとに授業分析を行い、授業改善に役立てている。

取組を振り返って

- ・授業内容や活動指示に関する視覚支援の効果的な工夫、すべての授業における「本時のめあて」を達成する「山場」と「ふりかえり」を意識した授業づくりが必要である。
- ・生徒個人票ファイルへの定期的かつ継続的な追記と、校内での共有をさらに推進していきたい。
- ・取組の目的・理由・内容を全教職員で共有し、みんなで教育のユニバーサルデザイン化に取り組むことが大切である。

ICT機器や、支援グッズを貸し出しています！

令和2年4月から、
全市の学校で
利用できます！

LD等支援の必要な児童・生徒の、
読み、書き等の困難さを補完するための
ICT機器などを学校へ貸与しています。
通級における指導教材としてはもちろん、
合理的配慮や代替手段としてなど、
普通学級での活用へとつなげる支援を
行っています。

「読む」 の支援

ペンでタッチすると読める 音声付教科書
(小1～小6国語のみ)

- ・教科書を読むことが難しい児童に、専用教科書と専用ペンを利用することで、音声読上げが可能。
- ・デジタイズ教科書のように、パソコン・タブレットなどの機器不要。
- ・教室内では付属のイヤホン使用。



デジタル耳栓(聴覚過敏の全学年)

- ・聴覚過敏や周囲の雑音が気になり、授業に集中することが難しい児童生徒。
- ・ノイズキャンセリング技術により、環境音を90%近くカット。
- ・防音用の大きなイヤマフよりも目立たない。



「聞く」 の支援

自助具(文具)セット
(書くことが困難／文具がうまく使えない)

- ・持ち方の矯正や、手指操作が苦手・標準的な文具が使いにくいなどの児童生徒への自助具。



「書く」 の支援

VOCA-PEN(小学生・中学生全般)

- ・テストなどのプリントにシールを貼り、あらかじめ教員が音声を専用ペンに録音しておくことで、どんな文書でも音声読上げが可能。
(代読が不要となる)
- ・教室内では付属のイヤホン使用。



■貸出について、もっと知りたい！

上記でご紹介している貸出教材・機器は、一部です。

お問い合わせは、総合育成支援課(Tel.352-2285)まで。 ← **光京都ネットイントラページもチェック！**

■見本を見てみたい！

3月9日から、見本を展示します(常設)。【場 所】総合教育センター1階 アクティブ・ラーニングエリア

ご紹介した事例を参考に、ユニバーサルデザインの視点から、
日本語指導が必要な子どもを含め、学習に「困り」を抱える
すべての子どもの支援に向けて、創意工夫をお願いします！

14号は、UDフォントで
作成しました！
(Windows10パソコン
に内蔵)

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★
光京都イントラ>●3 各課のページへ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

- ★作成に御協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！
- ★ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 令和2年3月・第14号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課
教育改革担当(Tel.222-3851)